八戸藩南部家十六代当主

南部　光隆　氏



テーマ　八戸の歴史、南部氏の歴史

●開催校　八戸市立旭ケ丘小学校
●日　時　令和８年11月５日　９：10～９：55
●参加者　６学年60名

八戸藩南部家第十六代当主の南部光隆さんを講師に迎え、南部家の歴史や八戸に伝わる文化についてお話しいただきました。

START



八戸藩と南部家の歴史

南部家のルーツは山梨県にあり、鎌倉時代に源頼朝のもとで活躍した南部光行が、東北地方にも領地を与えられたことが始まりと伝えられています。
江戸時代には盛岡藩から八戸藩が誕生し、現在の八戸市と岩手県北部の一部は、南部家が治めていました。

家紋に隠されたつながり

南部家には武田家とのつながりがあり、武田信玄で知られる武田家の「武田菱」と同じ菱形の家紋が使われています。例えば、八戸三社大祭の装飾など、地域のさまざまな場所にもその模様が残っています。
自分の家の家紋を調べてみると、思いがけない歴史のつながりが見つかるかもしれません。

南部せんべいの由来

南部せんべいの始まりには、南北朝時代の長慶天皇にまつわる伝説があります。
東北地方へ逃れてきた天皇に食べ物を献上するため、家臣がそば粉とゴマを混ぜ、自分の兜で焼いたというお話です。
また、せんべいの裏面に描かれた松や菊水のマークにも、それぞれ歴史的な由来があることを教えていただきました。

南部と津軽の関係

青森県で昔から語られている、南部と津軽の対立。その背景には、戦国時代のある出来事が関係していました。
当時、南部家の家臣だった津軽為信が、豊臣秀吉から津軽地方の領地支配を認められたことが、大きなきっかけとなりました。
それぞれの立場や言い分があったことも紹介され、歴史の背景を知ることでより深く理解できました。

八戸の街並みと三社大祭

江戸時代の終わり、八戸藩は戊辰戦争に参戦しない道を選び、地域の人々や街を守ろうとしました。そのことから、八戸は江戸時代の町並みがきれいに残っているとのことでした。
また、八戸三社大祭も、飢饉への地域の人々の願いや藩主の後押しによって発展してきた伝統行事です。
普段何気なく見ている街並みやお祭りにも、長い歴史と人々の思いが込められています。



南部さんから児童の皆さんへのメッセージ

「八戸の歴史をもっと知り、地元を好きになってほしい」という、熱いメッセージがありました。
また、将来、進学などで一度地元を離れても、いつか八戸に戻り、地域を盛り上げてほしいという願いが語られ、「上見れば及ばぬ事の 多かりき 笠着て暮らせ 己が心に（上を見ればきりがない。身の丈に合った生活を大切に）」という、南部家に伝わる教えも紹介されました。

自分たちが暮らす八戸の歴史を知ることは、地域への愛着を深めるきっかけになるので、ぜひ家族にも話を聞き、自分のルーツや八戸の歴史について調べてみてほしいと話されました。



南部さん、八戸の歴史を教えてくれてありがとう。



END